



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学歯科病院 病院長に就任して 歯科病院長 馬場 一美

今年も12月半ばを過ぎ、残り少なくなってきました。2019年は平成から令和へと年号が改められ、我が国にとっては節目の年となりました。我々の世代にとっては2度目の改元で、今回は当時の小淵幹事長が“平成”の書を掲げて新たな元号を公表されたことを今でも鮮明に憶えています。また、今年9月から2ヶ月に渡って行われたラグビーワールドカップが大きな注目を集め、One Team を掲げた日本代表の大躍進に日本中が湧き上がりました。来年の東京オリンピック・パラリンピックにも大きな期待が寄せられています。



個人的には4月に榎先生(現歯学部長)から昭和大学歯科病院 病院長を引き継ぎ、あっという間の8ヶ月でした。就任当初から各診療科の専門性・先進性の拡充、収支の改善、働きやすい環境の整備等を大きな柱として病院運営に取り組んでまいりました。6年間、榎前病院長のもと副病院長の立場で病院運営に携わっておりましたが、やはり病院長としての責務は重く、思うに任せぬところも多々ありました。しかし、理事長、病院担当総括理事、歯科病院担当理事を兼任されている榎先生を始めとした法人執行部の皆様のご指導、歯科病院の皆様のご支援でなんとか無事、年を越せそうです。この場を借りて関係各位に御礼を申し上げます。

今後は先に掲げた目標をさらに掘り下げ、歯科病院の発展のために尽くして参ります。まずは、各診療科の専門性・先進性を再評価しその拡充のために必要な支援を歯科病院側から積極的に行うこと、専門性の基盤となる卒業教育システムを整備し歯科病院の教育資源として蓄積すること、さらには、我々がサービスを提供する対象である患者の皆さんが理解しやすい形で歯科病院のメリットを整理し広く情報発信して行くつもりです。また、新たなチャレンジを行うためには収支のさらなる改善も必要です。職員の皆さんでコスト感覚を共有することがさらなるステップアップに繋がると考えております。そして、何よりも重要なことは病院全体で一体感をもち、皆さんがプライドを持って働くことができる環境を整備することです。専

門性・先進性の高い診療をプライドを持って提供することは言うまでもなく、大学病院という大きな組織で力を合わせて One Team として働く意義を皆で共有する必要性を感じております。

本年度の人権啓発標語歯科病院代表作品として、
職員の部:『ありがとう 飛び交う職場は 美しい』
家族の部:『“ありがとう”こころをつなぐ 魔法のこぼれ』が選ばれております。

数ある職場の中で偶然にも歯科病院で共に働く機会に巡り会えたことに感謝する気持ち、“ありがとう”があふれる環境を整備するため、職責・職種に関わらず風通しのよい病院運営を目指してまいりますので、来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

令和2年度歯学部合格者ガイダンスが 行われました 入試常任委員 高見 正道

令和2年度の推薦・編入学試験合格者ガイダンスが11月30日(土)午前10時より4号館201・202号室においておこなわれました。今回は、推薦入学志願者48名のうち25名(男8名、女17名)と、編入学志願者12名のうち2名(男1名、女1名)が合格となりました。最初に榎歯学部長が合格者に歓迎の言葉を述べ、続いて私が入学前準備学習について説明しました。制服姿の高校生たちはとても緊張している様子

だったので、「みなさん、合格おめでとうございます、合格通知が届いたときは嬉しかったですか？」と私が尋ねたところ、数名が硬い表情で小さく頷きました。次に金丸教授が富士吉田での学生生活についての心構えと準備について説明し、編入学者に対しては、中村雅典教授が2年次からの学修等について説明しました。その後、常任委員との個別面談をもって終了となりましたが、緊張から解放されたせいか生徒たちは帰宅せず、教室に集まって大きな声で談笑する姿が見られました。先ほどの硬い表情とは裏腹に、皆、初対面とは思えないほど仲が良く、微笑ましい光景でした。これらの生徒たちが4月に入学してくるのを楽しみにしています。



高大連携に基づく特別協定校で歯科の紹介をしました

歯科矯正学講座 中納 治久

2019年12月13日(金), 高大連携に基づく特別協定校(昭和女子大学附属 昭和中学校)で, 3年生(160名)を対象に講演会が開催されました。テーマは医療系の職業紹介—AI 時代での人間が携わる仕事について—, 昭和大学4学部7学科でそれぞれの専門医療職に関して講演を行いました。私は「歯科医師(矯正歯科医)とは?」を主題に, ①自分が中学生だった頃の夢, ②労働政策研究・研修機構(JILPT)発表の有効求人倍率の変化から時代を読む必要性, ③入管難民法改正と外国人労働者の受け入れ, ④AI・IoT・ロボットに関して, AIにより仕事が半減する職業, AI には分からない・出来ない! ?こと, ⑤歯科医師の任務, 歯科医師になる為には, 大学の歯学部で6年間の教育を受け, 歯科医師国家試験に合格しなければならない事, 歯科医師数の変化・女性歯科医師の割合・団塊の世代2025年問題・東南アジア諸国連合(ASEAN)との相互認証協定(MRA)・平成30年度歯科医師国家試験合格者数(2, 059人)と合格率63.7%, ⑥「歯科医師(矯正歯科医)とは?」, ⑦不正咬合とその治療, ⑧夢を見つけて欲しいこと, について説明しました。

講演中に驚いたことは, 学生さん達に矯正治療を受けた, または, 治療中の人を質問したところ, 8割以上が手を挙げたことです。昨年, 講演を行った時は, 6割位の感覚だったので, 昨今の歯並び・かみ合わせに対する関心に驚かされました。講演後の質問コーナーで約10名と話をしましたが, 海外や矯正治療に対する意識が高く, 積極的に自分の人生について考えているという印象でした。

昭和女子大学附属中学校の学生さん達は, 話を聴く態度が素晴らしく, 一つ一つの内容に「驚いたり」「笑ったり」「拍手をくれたり」と, とても楽しく講義を行う事が出来ました。このような人材が, 医療職を選んで活躍してくれることを期待しています。



大学院春季 I 期入試が行われました

歯学研究科長 高見 正道

令和2年度の歯学研究科春季 I 期入学試験が11月30日(土)午前9時より4号館600号室でおこなわれ, 今回は6名が受験しました。試験科目の外国語(英語)は3時間の長丁場でしたが, 受験者は受験票を机の端に置き, 真剣に問題を解いていました。その後, 13時より志望専攻科目試験が個別におこなわれました。合格者は12月19日(木)の16時に発表されます。

本学は, 専門医取得を希望する大学院生が十分な臨床実習と専門医取得の準備を行うことを可能にするために「専門医コース」を設けているのが特徴の一つです。年明けの2月15日に実施される春季(Ⅱ期)入学試験においても, 学問の頂をめざす多くの受験者が挑戦してくれることを期待しています。

大学院春季Ⅱ期入学試験(お知らせ)

- ・手続期間: 2020年3月6日~3月18日
- ・入試期日: 2020年2月15日(土)
- ・問合せ先: 昭和大学学事部大学院課

CBT が実施されました

CBT 委員長 荒木 和之

12月11日(水曜日)に, 令和元年度共用試験 CBT が実施されました。このところ寒暖の差が激しい日が続き体調が気になっていましたが, 受験を希望していた4年生95名は遅刻や欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし, 学生は午前8時40分に集合し, 全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており, 各ブロック60分で解答をおこない, 最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが, CBT 事前説明会やCBT 体験テストの経験もあって, 大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は鈴木先生(副実施責任者), 坂井先生(サイトマネージャー), 学務の係員と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない, 基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施評価機構から岡山大学の森田教授, 奥羽大学の木村教授がモニター委員として派遣され, 実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では, 受験態度や実施状況など概ね良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には, この場を借りて御礼申し上げます。

D3 地域連携歯科医療実習と報告会が実施されました

地域連携歯科学部門 丸岡 靖史

＜地域連携歯科医療実習 II＞は、平成26年度から必修化され、今年で6年目です。10月から12月にかけて、3期に分けて約100名の歯科医師会の先生に学生の指導をお願いしています。今年度12月19日に報告会が実施されました。当日は上條学生部長の挨拶の後、実習の総括、10時からは東京都歯科医師会山崎一男会長の講演が行われ、地域包括ケア、口腔機能低下症、オーラルフレイル、歯科医師会に関してお話いただきました。その後学生は、各班に分かれてPBL室で各自作成した発表スライドのブラッシュアップを行いました。発表会では、指導歯科医院の先生も参加していただき、10数名の学生がスライドを用いて発表し、20名の指導歯科医院の先生を含めての活発な討論を行いました。

実習発表会終了後、16名の指導歯科医院の先生との意見交換会が行われました。学生のモチベーションの向上、コミュニケーション教育の場、将来の歯科医師像を考える場になっているなどの実習の意義を多くの先生が感じられており、かなり情熱を傾けて指導していただいていることがわかりました。その後入院棟17Fのタワーレストラン昭和で学生も参加しての懇親会は盛況で、指導医との懇親を一層深めることができました。

本実習では、1年時＜地域連携歯科医療実習 I＞、3年時＜地域連携歯科医療実習 II＞、5年時では、病院歯科実習(昭和大学病院・藤が丘病院・烏山病院・横浜市北部病院・江東豊洲病院)で周術期口腔機能管理を含めての、急性期・回復期での歯科の対応や多職種医療連携を学習してから、＜地域連携歯科医療実習 III＞で在宅歯科医療での慢性期の対応、地域包括ケアに関して学習しております。本実習の遂行には、教育連携協定を締結している山梨県歯科医師会・東京都歯科医師会・神奈川県歯科医師会・各地区歯科医師会の先生に大変お世話になっております。今後とも歯科医療の発展、将来の人材育成のため、学生教育へのご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



白菊会連合会令和元年度総会が開催されました

口腔解剖学講座 中村 雅典

令和元年12月1日(日)に大井町の品川区立総合区民会館(きゅりあん)大ホールで白菊会連合会総会が開催されました。当日は幸いにも快晴で、参加9大学12学部から978名の会員が出席され、昭和大学歯学部白菊会からも46名が参加されました。午後2時開場となり、各大学解剖学講座の教職員ならびに本年度の当番校である杏林大学医学部の2年生が会員をお出迎えしました。総会は杏林大学医学部肉眼解剖学講座の長瀬美樹教授による開会の辞の後、物故会員への黙禱を捧げました。次いで、杏林大学学長、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の祝辞、白菊会連合会事務局長からの会務報告が行われました。最後に次期当番校である防衛医科大学校解剖学講座の小林靖教授が閉会の辞を述べ、総会は終了しました。その後のアトラクションでは、狭成病院副院長の高橋信一先生(杏林大学特任教授)による“健康寿命をのばそう！～元気ハツラツな毎日のために～”と題しての講演がありました。超高齢社会における健康維持のお話で、出席された会員は熱心に聞いていました。次年度は11月22日(日)に同ホールで防衛医科大学校解剖学講座が当番校として開催いたします。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 1月18日・19日 センター入試
- 1月23日 選抜I期・センター利用I期入試
- 1月24日 医学部併願入試

受賞

広報委員長 中村 雅典

- ・ピエールフォシヤールアカデミー 優秀学生賞
- ・日本学生支援機構優秀学生顕彰 奨励賞
歯学部5年 植田 紫衣生

日本顎口腔機能学会第63回学術大会で優秀賞を受賞しました

大学院3年(歯科補綴学) 小原 大宜

令和元年10月26日、27日に私の所属でもある歯科補綴学講座が主管となり、大会長の馬場一美教授、準備委員長の高場雅之講師を中心として、昭和大学旗の台校舎において日本顎口腔機能学会第63回学術大会が開催されました。その中で私は「睡眠時ブラキシズムに対する振動刺激を用いた長期的抑制効果の予備的検証」という演題で研究発表をし、優秀賞を受賞することができました。本学会は、歯科医学における基礎研究・臨床研究のみならず、工学系・自然科学系等の多彩な分野の会員から構成されており、発表15分・質疑応答15分と内容の充実した討論がなされる学会でもあります。

今回は、発表の準備をする傍ら大会運営のための準備もあり大変苦労しましたが、発表やその後の懇親会を通して様々な視点からのご指摘・ご質問をいただくことができ、とても有意義で貴重な経験となりました。この受賞を励みに、より一層研究に精進してまいりたいです。

優秀賞の受賞に際し、これまでご指導くださいました歯科補綴学講座馬場一美教授をはじめ、研究チームの先生方、ならびに日頃よりお世話になっています医局員の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



昇任

広報委員長 中村 雅典

・講師(昇任) 歯科薬理学講座 茶谷昌宏

D5植田さんがピエールフォシャルアカデミー優秀学生賞を受賞しました

口腔生化学講座 上條 竜太郎

令和元年11月23日、東京都港区の東京アメリカンクラブでピエールフォシャルアカデミー(PFA)日本部会2019年度総会・PFA優秀学生賞授与式が行われました。PFAは近代歯科医学の祖と言われるフランスのピエール・フォシャルの名を冠して1936年にアメリカで設立された国際的歯科学術団体です。

日本部会は1968年に発足しました。PFA優秀学生賞はPFAの主旨に基づき全国の歯学部学生の中から選出され、本年度は本学歯学部5年の植田紫衣生さんが受賞しました。授与式には国際歯科学士会日本部会会長として宮崎隆先生が出席され、植田さんにはPFA会長より賞状と奨学金が授与されました。



日本学生支援機構優秀学生顕彰奨励賞を受賞しました

歯学部5年 植田 紫衣生

この度、日本学生支援機構より優秀学生顕彰(学術分野)奨励賞をいただきました。今回表彰していただきましたこと、大変嬉しく思っております。これまで「破骨細胞分化に対するスクロース添加の影響」というテーマで研究を進め、国際学会で発表し受賞したことを評価していただきました。今後ともより一層の精進を重ねてまいりたいと思っておりますので、ご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。最後になりましたが研究を指導してくださった上條竜太郎先生、吉村健太郎先生、口腔生化学講座の先生方に心より感謝申し上げます。



編集後記

口腔生化学講座 吉村 健太郎

2019年は平成から令和に元号が変わり、時代の流れを感じる一年でした。本年も多くの方にお世話になり、誠にありがとうございました。また、年末のお忙しい中、原稿をご執筆いただきました先生方に心から感謝申し上げます。末筆ではございますが、令和2年が皆様にとって幸多い年になりますようお祈り申し上げます。